

クラス通信

麻生本校・円山校

クラスユニック小学部

令和6年8月号

2024. 8. 20発行

保護者の皆様へ

副理事長・校医

福島 拓

今回の特集は、2学期をどう過ごすかに焦点を合わせました。小学生の勉強について重要なことは、短時間でも継続する学習習慣の確立です。受験生以外の生徒は、算数では計算を、国語は低学年では漢字、高学年では文章読解を中心に取られると良いと思います。ただ、成長期の小学生にとっては、勉強だけではなく、習い事や読書、運動、映画視聴など興味や感性の赴くままに、とにかく焦らずじっくりと日々の成長を見守って欲しいと思います。一方、受験生は、夏休み明けからいよいよ合不合テスト・組み分けテストと続き、各中学校のプレテストに入ってきます。受験生はここからが勝負です。基本的に小学生は復習することで大きく点数を伸ばすので、後期の指導は、点数が取れない範囲、教科を中心に振り返りながら練習を重ねること、並行して志望校の過去問を解いていくことに重点をおきます。

夏以降、「中学受験」の追い込みと日常の充実した学習を

円山校・麻生校担当
西野

———お子様と共にご覧下さい———

夏休み期間の学習も最終盤に差し掛かりました。今年も暑い夏でしたが、体調に気を付けて無事に乗り切れましたでしょうか。全員が元気に2学期を迎えられることと思います。

さて、6年生（中学受験生）にとっては言うまでもなく重要な期間であるこの夏休みなのですが、受験を特には考えていない公立中に進学予定の人、また、5年生以下の皆さんにとっても夏休み期間は貴重な復習の機会であったことは言うまでもありません。最初立てたはずの予定通り、きっちりと自分の目標に向かってやりきることができたでしょうか？

○入試に向けた追い込み

入試までいよいよあと5カ月！教育大附属などは年内に入試が行われるので、残る期間は4カ月ほどしかありません。これからの期間に何をどのように進めていくかはいうまでもなく非常に重要です。こうした状況を本人もしっかりと認識し、やらなければならない科目、分野のポイントを押さえながら学習していきます。是非頑張ってください。

○大原則は徹底した復習

受験勉強の基本は、既習単元の定着度アップです！算数の解法や国語の知識分野、理科社会の一問一答問題など、今まで習った部分を確実に頭の中に整理していくことです。過去問に触れる機会が増えるこの時期には、焦っていろいろ手を出したくなりますが、中学入試では100点満点は必要ありません。

これからの時期に応用問題や初めて見た問題を解くために手を広げてしまうことは、今まで培ってきた基礎的な部分をおろそかにしてしまう危険性を伴います。基礎的な部分をもう一度確認して自分の得点力として自信が持てたときにはじめて次のステップに進めばいいのです。合格に向け一步一步足場を固める学習をして下さい。

<裏面に続く>

○過去問演習と入試への戦略

すでに志望校の過去問を解いてみた受験生は多いと思いますが、まずは自分の**現在位置**を把握するうえで時間を計って実践することは重要です。あまり直前で行うと点数のみに一喜一憂してしまいがちなので時間的にゆとりのある早めのタイミングで実践してみてください。

また、先月も書きましたが、各校のプレテストも必ず受験してください。

教室だよりー円山校・麻生校より

円山校・麻生校 西野



夏休みに入り、夏期の特訓として、いつもより多い回数教室に通い、勉強をしている生徒、自習室を利用し黙々と学習する小中学生、やはり学校通学がないこの期間はある意味のびのびと学習に向かっている姿がとても頼もしく感じられました。

この文章を書いているのはまだ8月の初旬で、連日オリンピックのニュースでにぎわっています。

メダル獲得のニュースの一方で、期待を背負いながら戦い、残念ながら思わしくない結果に終わった選手もいましたが、たとえ結果が思った通りでなかったとしても、そこに至るまでの努力は私たちには到底想像及ばない位のものであったはず。その過程に心から敬意を表します。

印象に残った競技はいくつもありますが、その中でとりわけ体操男子団体で、トップを走っていた中国の選手が最終種目の鉄棒で落下をし、日本が逆転金メダルというシーンがありました。日本人としては喜ばしい結果だったのですが、一方で失敗してしまった中国選手団の心はいかばかりでありましょう。きっと何度も練習し、その多くは成功していた技だったのでしょう。

いくつもの高難度の技を繰り返し得点を競う採点型の競技は、入試に似ている部分もあります。普段できていても、本番で失敗することだってあります。それだけに選手たちは練習を繰り返し、成功確率を上げていくわけです。

テストで思うような点数が取れなかった生徒がよく口にするのは「ケアレスミスが…」という言葉です。しかし、この言葉の裏には、「本当はできていた。わかっていた。」という自分や周囲への言いわけやポーズが見え隠れしています。確かにそうなのかもしれませんが、どんなに基本的な問題であろうと、絶対ということはないのです。10回やったら9回はできる問題は子供にとっては「簡単な問題」でしょう。しかしその問題が10問あれば満点が取れるでしょうか？満点確率は90%の10乗（≒35%）でしかありません。それを20回中19回はできる問題（満点確率は約60%）に変えるべく精度を高めていく作業こそが受験勉強の根幹だと思います。「前にできた問題」「易しい問題」こそ復習を怠らず、大事にすべきものなのです。そういう競技者（受験生）こそが合格をつかめると信じています。



麻生本校:001-0037 札幌市北区北37条西3丁目3-15 ☎011-716-7162

円山校 :064-0820 札幌市中央区大通西23丁目1-1 ☎011-613-7755

R6年8-9月円山校小学部



R6年8-9月麻生本校小中学部



8月、9月予定の詳細はQRコードからホームページでご覧下さい。